



アレルギー疾患の 基礎知識

科学的知見に基づく医療を受けることで
症状のコントロールが可能となってきています

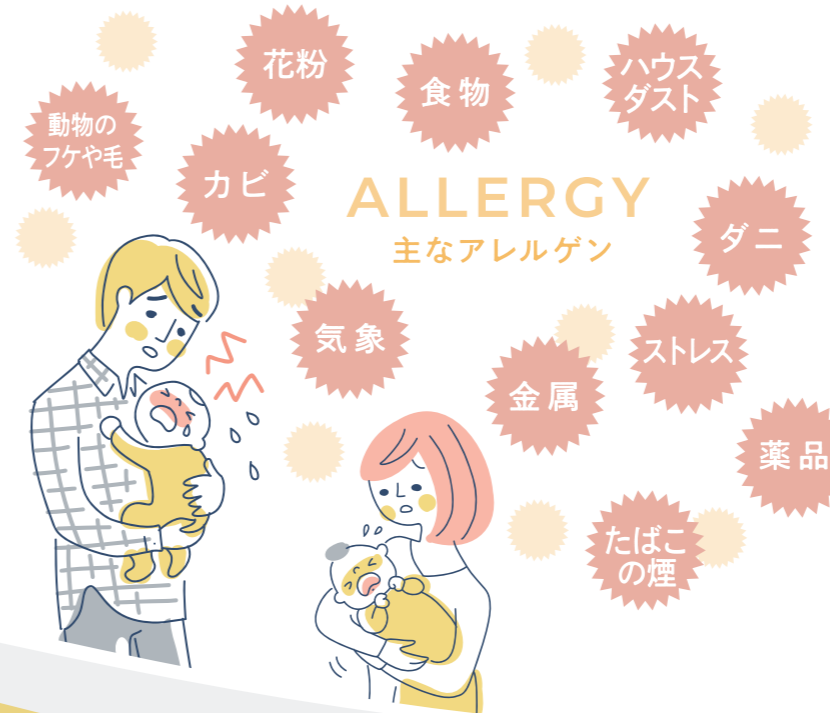


アナフィラキシーについて

食物、薬物、ハチの毒などが原因で起こるアレルギー反応のために、じんましんなどの皮膚症状、息苦しさなどの呼吸器症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状などが、複数の臓器に同時、または急激に症状が現れることです。

血圧の低下や意識の低下(呼びかけに応じないなど)がある場合は、「アナフィラキシーショック」であり、生命の危機的な状況です。

アナフィラキシーが疑われる場合は、**症状の程度にかかわらず救急車を呼んで、医療機関で治療することが必要です。**アドレナリン自己注射(エピペン)を持っている人は、救急車の到着前に、自分で対処することも忘れないようにすることが必要です。



医療機関のかかり方

- 早めに医療機関を受診し、治療を始めましょう。
- 日ごろの状態をメモしておくなど、症状を医師に正しく伝えられるようにしましょう。
- 処方された薬の用法や用量をきちんと守りましょう。
- ご本人やご家族が正しい知識を持って、医師とコミュニケーションを図り、良い状態にコントロールしていきましょう。
- 自分で判断せず、定期的を受診し、医師の指示のもと、継続して治療をしましょう。

神奈川県アレルギーについて

検索



県ホームページからアレルギー学会指定専門医や病院の診療情報が調べられます。

アレルギーとは

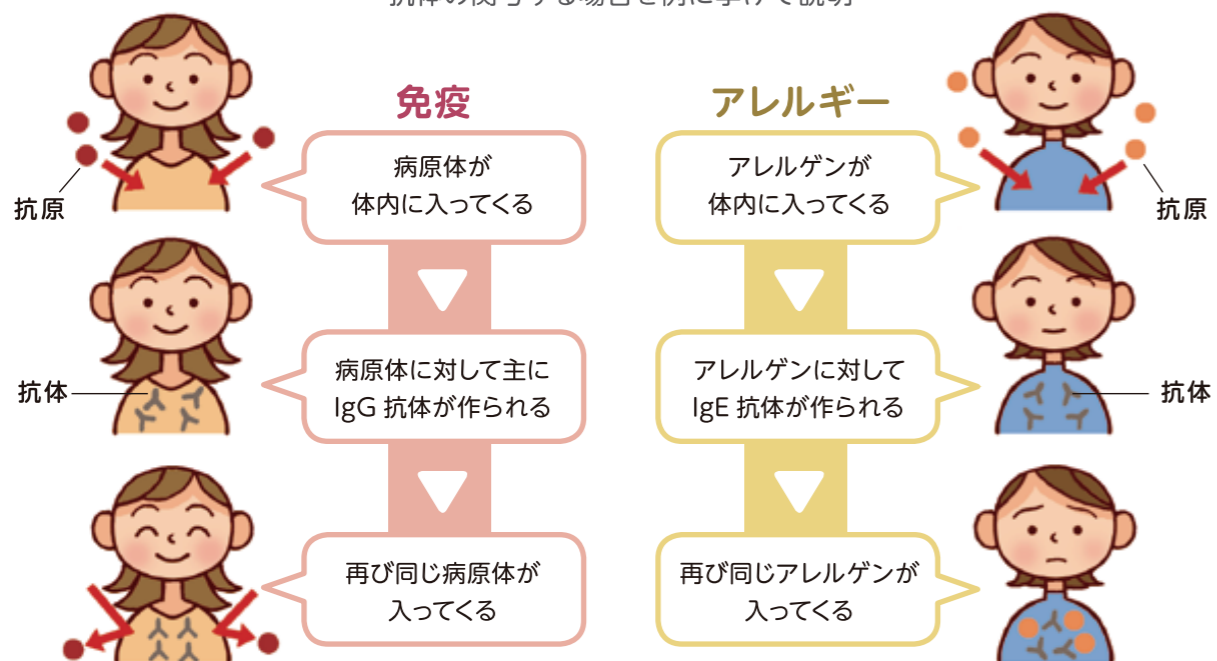
アレルギー反応を起こす原因となる物質をアレルゲン(抗原)といいます。身体の中にアレルゲンとなる異物が入ると、抗体が作られます。この抗体が、アレルゲンに対して過剰に働いて、粘膜や皮膚に炎症が生じ、身体に害となる症状が起こることです。アレルゲンには、様々な種類があり、どのアレルゲンに反応するかや、反応の強さなどは、人によって異なります。

監修：横浜市立みなと赤十字病院 アレルギーセンター長 中村陽一

横浜市立みなと赤十字病院は県が指定した神奈川県アレルギー疾患医療拠点病院です。

免疫とアレルギー

抗体の関与する場合を例に挙げて説明



アレルギーの検査には、IgE抗体検査（血液検査）や皮膚テストなどがあります。医療機関を受診して診断を受け、治療すること、アレルゲンが特定されたら、それを避けることが大切です。

出典：環境再生保全機構 ERCA(エルカ)「よくわかる食物アレルギー対応ガイドブック」
<https://www.erca.go.jp/yobou/>

アレルゲン免疫療法って？

アレルギーの原因となるアレルゲンをごく少量ずつ投与することで、アレルゲンに対して体が反応しないようにするための治療で、以前は「減感作療法」とも呼ばれていました。

この治療は症状に対する治療や炎症を抑える治療とは異なり、アレルゲンに対して体の反応が生じにくくする治療で、アレルギーの治療法の中では根治（治癒）を目指す唯一の治療とされています。

この治療法は、ごく少量ですが発症の原因となるアレルギー物質を投与する治療法ですので、アレルギー反応が出現する可能性があるため、必ず医師の指導により適切に治療を行う必要があります。

必ず医師の指導のもと治療を受けましょう



アレルギー疾患の特徴



食物アレルギー

食物がアレルゲンとなり、体内に入ることや触れることによっておこり、皮膚のかゆみや湿疹、口や目のはれ、腹痛、喘鳴（ゼーゼー、ヒューヒュー音）などを主な症状とする疾患です。まれに、アナフィラキシーショック意識障害や血圧低下などのショック症状を起こすなど、命にかかわることもあります。

point!

医療機関できちんと診断を受け、医師の指示のもと、アレルゲンとなる食品の制限や除去、解除を行います。安全を確保しながら、必要な栄養を考え、バランスの良い食事を心がけることが大切です。



アトピー性皮膚炎

皮膚が炎症を起こし、皮膚の慢性的なかゆみを伴う湿疹などを主な症状とする疾患です。感染を伴ったり、乾燥しすぎるなど皮膚のバリア機能が低下すると悪化します。

point!

適切な治療と併せて、洗浄、保湿などのスキンケアをきちんと行うことが大切です。



気管支ぜん息

アレルゲンにより、気管支が慢性的な炎症で狭くなることにより、呼吸が苦しくなり、息をする時に、咳や喘鳴（ゼーゼー、ヒューヒュー音）、呼吸困難などの発作を繰り返します。

point!

適切な治療と併せて、室内などの環境を整え、家族も禁煙することが大切です。



アレルギー性鼻炎

ハウスダストや花粉など、アレルゲンが鼻に入り、アレルゲンの侵入を防いだり、体の外へ出すために、鼻づまりやくしゃみ、鼻水などを主な症状とする疾患です。

point!

アレルゲンを避けたり、室内などのアレルゲンを減らす工夫が大切です。



花粉症

花粉をアレルゲンとして、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、眼のかゆみ、充血などを主な症状とする疾患です。

point!

メガネやマスクなどで花粉を避け、室内などに花粉を持ちこまない工夫や室内の環境を整えて、花粉を除去するが大切です。



アレルギー性結膜炎

結膜眼球の表面から瞼の裏を覆う粘膜に炎症が起こり、眼のかゆみ、涙、むくみなどを主な症状とする疾患です。

point!

アレルゲンを避けたり、適切な方法で目を洗浄するなどの対応が大切です。

アレルギーマーチについて

アレルギー疾患は一度発症すると複数のアレルギー疾患を合併したり、新たな別のアレルギー疾患を発症したりするという特徴（アレルギーマーチ）があるため、発症予防も勘案した治療が必要です。

